

## 第 4 回 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議

## 議事要旨(案)

1. 日 時 2020 年 2 月 4 日(火) 10:00~12:00

2. 場 所 中央合同庁舎 8 号館 416 会議室

## 3. 出席者 敬称略

座長	永田 恭介	筑波大学長、一般社団法人国立大学協会長
副座長	安宅 和人	ヤフー株式会社 CSO、慶應義塾大学環境情報学部教授
	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会顧問、AI 戦略実行会議座長
	五十嵐 悠紀	明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任准教授
	岡本 和夫	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構顧問
	北野 宏明	一般社団法人日本経済団体連合会イノベーション委員会 AI 活用戦略 TF 主査、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長、AI 戦略実行会議構成員
	草野 隆史	株式会社ブレインパッド代表取締役社長、一般社団法人データサイエンティスト協会代表理事、一般社団法人日本ディープラーニング協会理事
	小谷 元子	総合科学技術・イノベーション会議議員、東北大学高等研究機構長、東北大学材料科学高等研究所教授 兼 大学院理学研究科数学専攻教授
	杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター長、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
	竹村 彰通	滋賀大学データサイエンス学部長
	椿 広計	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所長
	長谷山 美紀	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長
	村田 治	関西学院大学長
	山中 竹春	横浜市立大学医学部臨床統計学主任教授・データサイエンス推進センター長
	ルゾンカ 典子	ソニー銀行株式会社執行役員

## 有識者

孝忠 大輔 日本電気株式会社 A I 人材育成センター センター長

## オブザーバー

小池 雅行 独立行政法人情報処理推進機構 I T 人材育成センター企画部長

## 4. 議題

- ( 1 ) 第3回検討会議での主なご意見等について
- ( 2 ) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)について
- ( 3 ) 今後の予定

## 5. 資料

資料 1 数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム(素案)

参考資料 1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議(第 3 回)議事要旨(案)

## 6. 議事要旨

- ( 1 ) 第 3 回検討会議の主なご意見等について

冒頭、永田座長の挨拶の後、事務局より第 3 回検討会議でのご意見等について参考資料 1 に基づき説明があった。

- ( 2 ) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)について

日本電気株式会社孝忠氏(モデルカリキュラム(リテラシーレベル)の全国展開に関する特別委員会 委員)より、資料 1 に基づき、検討中のリテラシーレベルのモデルカリキュラム素案についてご発表があり、意見交換がなされた。

事務局より、第 4 回検討会議でのご意見等をふまえ修正した数理・データサイエンス・AI の優れた教育プログラムについての基本的考え方、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI 教育に係る認定制度の設計に関する論点等を提示し、認定の考え方や認定対象、認定制度運用等について議論が行われた。

(以下は、その中での意見の例)

- I 全ての大学・高専生がリテラシーレベルの教育を受けられる状況を達成するには、一定の

基準による認定の上で、さらに優れた教育プログラムを認めていくという 2 段階の認定もあるのではないか。

- 1 本来的には全員受講（全学必修）が望ましいが、必修化には手続き上の困難があるという理解である。全員にオープンであることを必須とし、全学必修に向けての工程を示すことを求めているかどうか。
- 1 認定後に教育プログラムが硬直化せず、不断の改善がなされるべきであり、教育プログラムの自己点検・評価体制を整備して改善していくことを求めているかどうか。

（ 3 ）今後の予定

事務局より今後の予定について説明があった。

以上